

# 庁議の概要

開催日 平成27年10月30日（金）

## ◎項 目

### 1 各部局等の今週の動きについて【各部局等】

## ◎内 容

（冒頭）知事から以下のとおり話があった。

これから県政浮揚に向け、より根本的な課題について様々な挑戦をしていくこととなる。官民協働、市町村政との連携・協調、さらには全国区の取り組みの中にしっかり身を置いていくことについて、引き続き徹底を。

うまくいっていないなどの悪い話こそ、早め早めに教えてほしい。私か副知事には必ず上がる状況に。問題の対処の議論は早く始めた方がいいに決まっており、後々まで放置されどうしようもなくなってから表沙汰になるのは最悪である。皆さんとともに、そういう問題は早めに対処したい。

組織としての「対話と実行」を徹底してほしい。例えば農業振興部でも各JAの皆さんとの協議といった取り組みを進めており、県としてどういう政策を展開しようとしているかということについて多くの皆様方と共通認識を持つことは大事である。共通認識そのものが疑われるようなことも出てくる可能性もあるが、しっかり対話をしていけば打開できるのであり、共通認識を得るために、また、共通認識そのものの見直しが必要なときに見直しが行えるようにするために、そしてまた日々の運営がうまくいくためにも、県民の皆様と常に対話をしていくということが極めて大事なことである。私自身も各分野において「対話と実行行脚」的な取り組みができないものかと考えているところであり、特に3期目は従前以上にそういう姿勢を強化したい。ぜひ各部局もそういう取り組みをなお一層徹底してほしい。

### 1 各部局等の今週の動きについて【各部局等】

総務部が取りまとめた各部局等の今週の動きに関する資料を配付の上、各部局による概要説明及び協議が行われた。

<主な協議の概要>

#### ○ がん登録について

（健康政策部）

来年1月1日から「がん登録」が義務化され、がんが登録制になる。全国で毎年約98万人ががんになり約37万人が亡くなっている。高知県でも約5,700人ががんになり約2,500人が亡くなり、死亡原因の4分の1ががんとなっている。これまでは任意の地域がん登録により、高知大学医学部附属病院や高知医療センター等のがんの拠点病院等からの報告で県全体の3分の2程度は把握できていたが、今回からはほぼ全数が把握ができるようになり、よりデータが収集できて有効な対策がとれるようになる。ただし、来

年 1 月 1 日から始まるが、実際に使えるようになるのが平成 31 年であり、それまでは「地域がん登録」を続けていく。

## ○ 県立病院の南海トラフ地震対策について

(公営企業局)

11 月 1 日に、あき総合病院で南海トラフ地震対応の机上訓練を行う。エマルゴというスウェーデンで開発された机上訓練で、健康政策部からキットも借りて行う。また、11 月 8 日には幡多けんみん病院で訓練を行う。災害医療幡多支部と四万十市が合同で開催し、会場は幡多けんみん病院と幡多看護学校で一緒に行う。トリアージや SCU への搬送のための連絡の訓練などを行う。

あき総合病院は今年度、幡多けんみん病院も昨年度 BCP を作成しており、これらの訓練を実施し見直しなども検討していくようにしている。

## ○ トリム基金について

(産業振興センター)

トリム基金(こうちビジネスチャレンジ基金事業)について、昨日プランを認定した。最優秀に選ばれた方は東京大学医学部出身で、東京駅前でクリニックを開業していた時に、医師が真に満足して得られる医療情報が少ないということで、医療情報のシステムを本格的に作ろうとしている。中央の投資家も注目している案件で、審査員も非常に高評価であった。非常に壮大なスケールで、高知でなくてもできる事業をあえて高知でやっていただけということなので、今後は、ココプラや健康政策部の協力も必要になってくるし、産業振興センターも徹底的に支援していく。

(知事)

どうして高知で。

(産業振興センター)

もともとお父様が高知で医師をしており、大病院ではなく診療所がメインの事業であることから、高知は診療所も多いため、そうしたところでやりたいと。

他の 4 つの認定事業も含め、産業振興推進部や健康政策部、ココプラなど、今後各部署の協力を得て進めていきたいので、よろしくお願ひしたい。